

平成 17 年 5 月 9 日

## 2 号機原子炉建屋における水漏れについて

平成 17 年 5 月 7 日午前 10 時 17 分頃、定期検査中の 2 号機原子炉建屋 4 階の空調ダクトより水が滴下（1 秒に 4 ～ 5 滴）していることを協力企業作業員が発見いたしました。その後、当社社員が現場を確認し、滴下した水は仮設容器により受けました。なお、4 階床面に滴下した水の一部が階段部分を通して、3 階から 1 階まで滴下したことを確認しました。漏れた水の量は約 5 リットル、放射エネルギーは約  $2.6 \times 10^4$  ベクレルであり、漏れた水については、拭き取りにより清掃を実施いたしました。

原因を調査したところ、原子炉建屋 5 階においては、定期検査作業にて原子炉停止時冷却系<sup>\*1</sup>および使用済燃料プール浄化系<sup>\*2</sup>の停止にともなう事前準備として、使用済燃料プール水温上昇にともなう 5 階エリアの結露防止のため、使用済燃料プール上面等を養生シートにて密閉しておりました。また、使用済燃料プール水面上部に設置された換気口<sup>\*3</sup>（20 箇所）においても、蒸発水を吸引しないようにブリキ板にて養生を実施しておりましたが、一部完全に養生できない換気口があり、そこから吸い込んだ蒸発水が空調ダクト内で結露し、4 階空調ダクトつなぎ部から滴下したものと推定いたしました。

その後、プール水温の確認を行い蒸発水の発生が少ないと判断したため、当該養生シートおよび換気口のブリキ養生を撤去し、5 月 8 日滴下がなくなったことを確認いたしました。

今後、対策を検討することといたします。

なお、これによる外部への放射能の影響はありません。

以上

\* 1 原子炉停止時冷却系

原子炉を停止した後の燃料の崩壊熱を除去する系統。

\* 2 使用済燃料プール浄化系

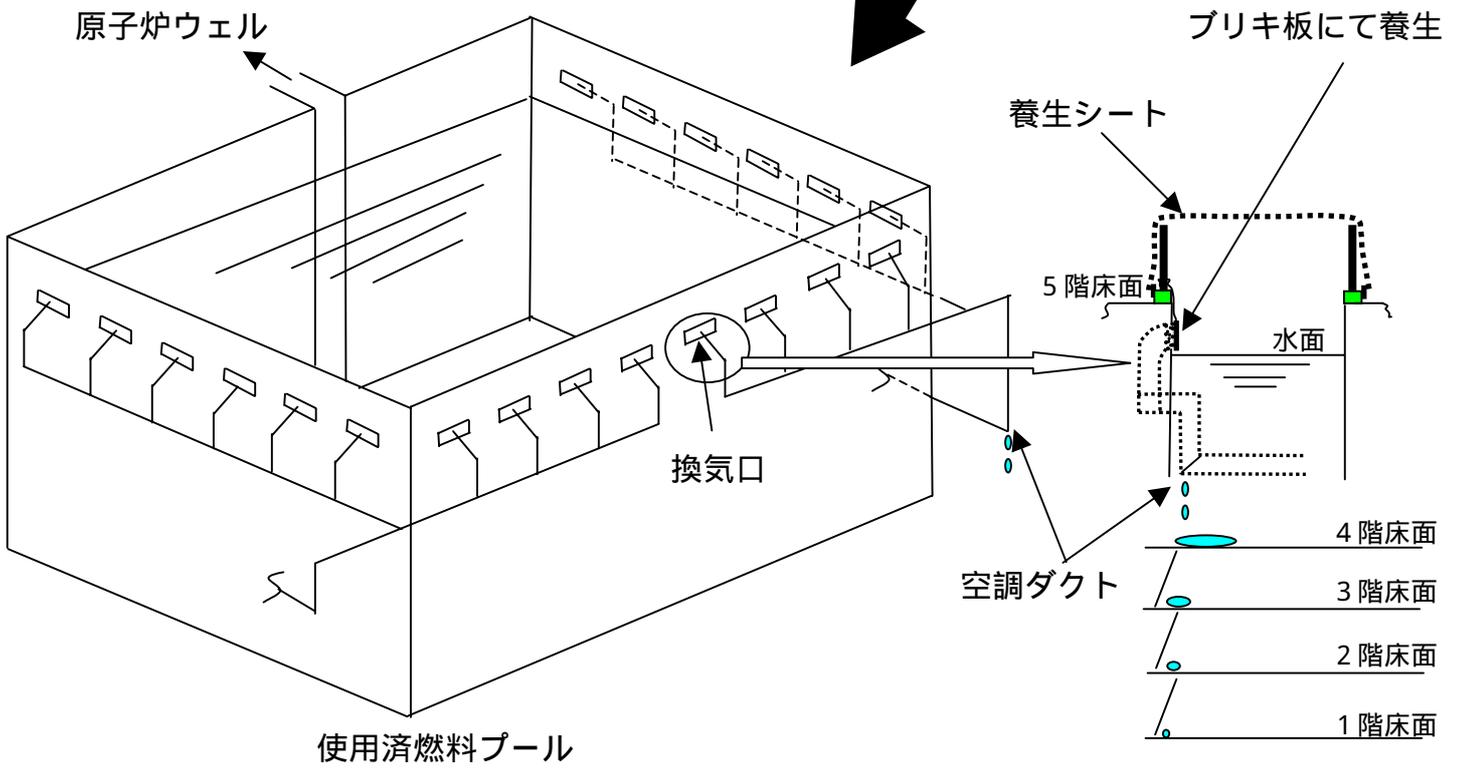
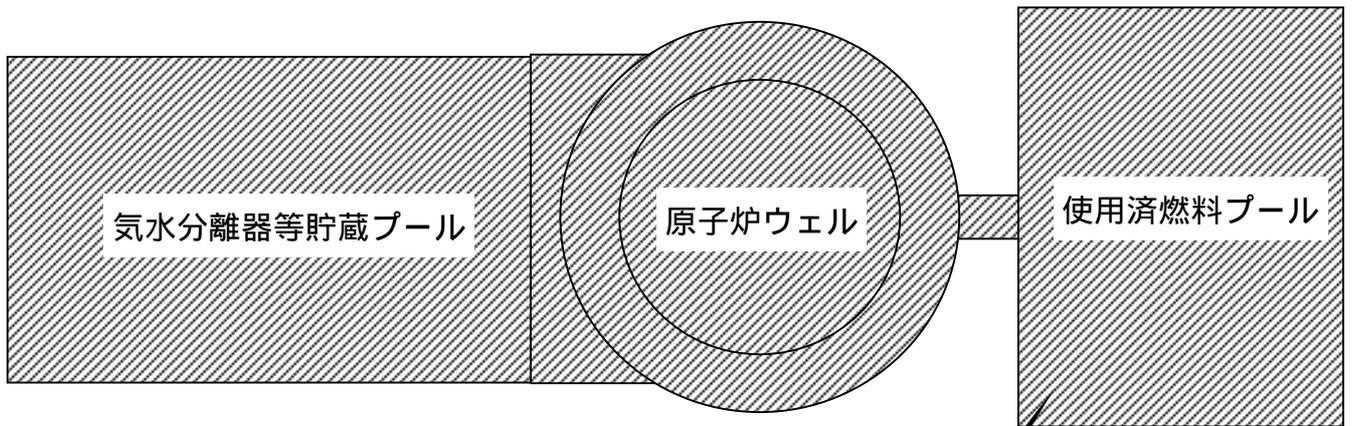
プール水を循環することにより、冷却しながら不純物を取り除き、一定の水質に保つための系統。

\* 3 換気口

使用済燃料プールから蒸発した水分を処理するために設けられたもの。

これは「当社原子力発電所における不適合事象の公表方法の見直しについて」（平成 15 年 11 月 10 日お知らせ済み）における区分の事象として、休日に発生した不適合事象を翌営業日に公表しているものです。

：シート養生範囲



2号機原子炉建屋における水漏れの概要図